

第1回 尼崎市災害時要援護者支援連絡会(講演会)アンケート回答(集約)

問1 講演会を受講したことでの気づき

(1) 要支援者の避難支援における課題について

- 地域の要支援者一人ひとりの状況(障害特性、健康状況)や配慮事項の把握が必要
- 要支援者一人ひとりの具体的な避難計画(個別避難計画)の周知・作成や避難所での避難所での生活体験訓練が必要
- 災害時の要支援者の状況(在宅避難避難者など)の情報把握が必要
- 障害者がすぐに避難できる場所の確保と避難所までの搬送方法などが必要
- 地域の支援者の高齢化や担い手不足

(2) 要支援者の「自助」の取組を進めるための、各所属・団体の取組や今後取り組みたいこと

- 避難行動要支援者名簿の受け取りの検討や、要支援者とのコミュニケーションによる災害時の接し方の話し合い。
- 個別避難計画の作成研修会など防災意識を高める活動(例:研修会、SOS カード作成)
- 地域・行政・当事者が連携した防災訓練の実施
- 他の当事者団体とのつながりづくりや日ごろの支援に携わる介護・福祉事業所と一緒に自助の検討をしたい。

(3) 地域の「共助」の取組を進めるための、各所属・団体の取組や今後取り組みたいこと

- 見守り等の活動を通して、要支援者とのコミュニケーションをとりたい。
- 隣近所の住民との避難訓練を実施や、自治会とのつながりをつくり、災害時の避難に関する情報を共有しておきたい。
- 地域の支援関係者との障害への理解や避難方法等を話し合い、研修等の周知啓発の実施。
- 広域マッピングによる障害者の人数、支援の必要度の把握など
- 若い世代も参加させる取組も必要。

(4) 要支援者支援において行政や各団体に期待する役割や取組、今後連携し取り組みたいこと

- 要支援者とのコミュニケーションや避難誘導、地域の訓練への関係機関の派遣、各団体・行政が連携した避難誘導訓練(図上訓練含)
- 医療的ケア児・者等が安心して避難できる避難先となる医療機関の確保や障害児・者専用の避難所の確保
- 避難所開設基準など防災や避難に役立つ情報・知識や要支援者避難支援に関する全市民対象や当事者向けの広報の強化(当事者団体の協力も可能)
- 日ごろから各団体の災害時の動きの共有
- 平常時から企業とつながった簡易トイレの確保

問2 次年度の災害時要援護者支援連絡会の実施内容

(1) 要支援者の避難支援において、協議会で協議・検討したいテーマについて

- 当事者の方の避難誘導方法の検討
- 各団体や各町会での避難訓練の実施。色々な世代の巻き込み方
- 個別避難計画の作成と作成段階で抽出された課題の共有と対策議論の定常化(WG の設置)
- 避難所(福祉避難所含む)の開設や運営のあり方等の協議
- 防災対策、自助、共助、公助の理解と周知方法など
- 各団体における発災時の対応マニュアルの整備状況・内容について
- 乳幼児・外国籍住民など、様々な要支援者を想定した問題を検討したい。
- 過去の災害発生時の対応事例の共有

(2) 参画団体間の連携強化に向け、各団体と一緒に取り組みたい活動や学びのアイデア・意見等

- 避難経路・誘導方法の確認や地域ごとの訓練の実施
- 個別避難計画の作成と作成段階で抽出された課題の共有と対策議論の定常化(WG の設置)
- 要支援者が指定避難所に避難した場合を想定したシミュレーションとそれによる課題・問題点の共有
- 避難訓練で、各団体から「気を付けていること」「取り組んでいること」等を聞きたい。
- 被災者が体育館等での避難生活をするための具体的な活動を実際に行いたい。(簡易ベッド・トイレ、救急実習など)。
- 災害時のフレイル予防体操や避難行動・災害時に役立つ料理動画の情報共有
- 市のイベント開催時に避難所で使う物品紹介や避難する時の物品用意などの掲示
- 市民がもっと興味を持ってもらえるよう、いつ、どんな時に避難所へ行くのかなど避難行動の基準の公共施設に掲示や、市報、台風シーズンに車で巡回放送するなどの取組

以 上